



再生医療の理解に向けて

一般社団法人CSRプロジェクト
がんサーソリューションズ株式会社
桜井 なおみ

筆頭演者の利益相反状態の開示

	該当状況	企業名等
企業の役員・顧問職	○あり	キャンサー・ソリューションズ株式会社・代表取締役社長
株式	なし	
特許使用料	なし	
講演料等	なし	
原稿料等	なし	
研究費	なし	
その他の報酬	なし	

0. はじめに

がん情報サービスのはじまり

「がん情報サービス」は、2006年に施行されたがん対策基本法に基づき、国立がん研究センターが構築したWebサイトです。がんの死因1位化に伴う不安解消、信頼できる情報への需要、そしてがん診療の均てん化を目的とし、信頼性の高い最新情報を全国の患者・家族へ届ける基盤として設立されました。

- ✓ 社会的な背景:1981年にがんが死因の第1位となり、その後も増加傾向にあったため、国として本格的ながん対策(10か年総合戦略など)が必要とされたこと。
- ✓ 情報ニーズの増大:ネット上の誤情報や、患者・家族のがん医療に対する不安・不満(情報の非対称性)を解消し、誰でも信頼できる情報にアクセスできる環境が求められた。
- ✓ がん対策基本法の成立(2006年):同法に基づき、がん医療水準の向上や「がん診療連携拠点病院」の整備とともに、国民へ正しい情報を届ける「がん情報提供ネットワーク」の整備が必須とされた。
- ✓ 運営体制:国立がん研究センターが運営し、外部の有識者、関係学会、患者代表(患者市民パネル)の協力により、公平かつ最新の科学的根拠(エビデンス)に基づく情報を提供。

それでもなお起こりつづける死亡例

信頼でつなぐ、がん情報の羅針盤：国立がん研究センターの2つの柱

がん情報サービス：患者・家族に寄り添う情報提供



「確かな・わかりやすい・役に立つ」3つの約束

専門家と患者が協力し、公平・中立な視点で作成された信頼性の高い情報です。



状況に合わせた4つのカテゴリ

一般向け、病院検索、専門家向け、統計データの4窓口で必要な情報へ導きます。

カテゴリ	主な内容
一般向け	がんの基礎知識、検査・治療、生活の工夫、予防・検診
相談先・病院を探す	がん診療連携拠点病院等の検索、地域別絞り込み
医療・行政・統計	専門的情報、がんの死亡・罹患・生存率データ



病院・相談先をスムーズに検索

がんの種類や地域、診療状況で絞り込み、最適な療優先を探ることができます。

がん統計：データが描くがん対策の未来



日本のがん実態を精密に分析

全国がん登録等のデータに基づき、死亡数や生存率を国際基準で算出しています。



いつでも閲覧できる「統計検索システム」

がん種別の最新データ、年次推移、検索予測などをウェブ上で自由に探索可能です。



都道府県別の詳細なデータ公表

75歳未満の年齢調整死亡率など、地域ごとの対策に役立つ指標を提供しています。



国立がん研究センターがん対策研究所は、「確かな」「わかりやすい」「役に立つ」情報の提供をミッションとしています。患者向けのポータルサイトと、科学的視観となる統計データの公表という2つの側面から、日本のがん対策を情報面で支えています。

再生医療ポータルとは

患者さんや一般の方々へ、再生医療に関する専門的で幅広い情報を、わかりやすくまとめ、提供する目的で開設したポータルサイトです。

再生医療に関するニュース

再生医療について

提供機関をさがす

Search

治療名や病名などから検索が可能です。

治療名、病名など

検索

もっと詳しく検索したい方はこちら

社会とのとりくみ

再生医療の社会実装に向けて日本再生医療学会が社会とともに取り組む事業を紹介します。

治験情報

「主たる治験」の「加工細胞等」に分類された届出の情報を紹介しています。



2026年01月30日

再生医療に関するニュース

人道的見地から実施される治験の情報(医薬品・機器・再生)が更新されました(PMDA)



2026年01月30日

再生医療に関するニュース

副作用救済給付の決定に関する情報(2025年度11月分)が掲載されました(PMDA)



2026年01月23日

再生医療に関するニュース

再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づく改善命令について(厚生労働省)



2026年01月23日

再生医療に関するニュース

「不具合が疑われる症例報告に関する情報(再生医療等製品)」に2025年9月分の情報が追加されました(PMDA)



2026年01月23日

再生医療に関するニュース

外国製造業者認定・登録番号が掲載されました(PMDA)



2026年01月19日

再生医療に関するニュース

iPS細胞から作製した“作り置きできる免疫細胞”が、がん治療を変える可能性(理化学研究所)



2026年01月15日

再生医療に関するニュース



2026年01月09日

イベント



2026年01月09日

再生医療に関するニュース

イタチごっこ⇒検索サイトとの協業

国立がん研究センターとヤフーが連携

「Yahoo!検索」結果画面上部に「がん情報サービス」の情報提供枠新設

インターネットでの正しい医療情報の入手、適切な治療選択へつなげることを目指す

✕ ポスト シェアする LINEで送る

2018年1月30日

国立研究開発法人 国立がん研究センター

国立研究開発法人国立がん研究センター（理事長：中釜斉、所在地：東京都中央区）がん対策情報センター（センター長：若尾文彦）は、ヤフー株式会社と連携し、本日よりスマートフォン版「Yahoo!検索」の検索結果画面上部に国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」が提供している病気の概要や症状、原因などの情報提供枠を新たに設けました。対象となる検索ワードは各種がんの病名などで、病気の概要や症状、原因などがまとめて上部に表示されるようになります。

内閣府が行ったがん対策に関する世論調査（注1）では、60歳未満の半数以上が、がんの治療法や病院についての情報源として「インターネット」と回答しています。しかしながら、インターネットの検索結果に掲載されているがん治療法情報のうち、診療ガイドラインなど科学的根拠に基づく治療法（標準治療）に関する情報は半分以下といった調査結果（注2）もあり、検索サービスから正しいがんの情報にたどり着くのは難しく、インターネットでの医療情報の収集には課題があります。

国立がん研究センターがん対策情報センターは、「正しい情報に基づいて、国民のためのがん対策推進を支援する。」ことを使命とし、ウェブサイト「がん情報サービス」（URL: <http://ganjoho.jp>（外部サイトにリンクします））からの情報発信とともに、全



がん情報サービス

ganjoho.jp

サイト内検索



小

大

医療関係者向け

がん統計

がんの臨床試験を探す

病名から探す | 治療と生活 | 制度やサービス | 世代別の情報 | 予防・検診 | 資料室

HOME > お知らせ > お知らせ一覧 2017年度（平成29年度） > 「Yahoo!検索」結果画面上部に「がん情報サービス」の情報提供枠新設



お知らせ一覧

2017年度（平成29年度）

「Yahoo!検索」結果画面上部に「がん情報サービス」の情報提供枠新設

国立研究開発法人国立がん研究センター（理事長：中釜斉、所在地：東京都中央区）がん対策情報センター（センター長：若尾文彦）は、ヤフー株式会社と連携し、本日よりパソコン版（タブレットにも対応）「Yahoo!検索」の検索結果画面上部に国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス（本サイト）」が提供している病気の概要や症状、原因などの情報提供枠を新たに設けました。

2018年1月30日に開始されたスマートフォン版「Yahoo!検索」と同様に、本サイトが提供している各種がんの病名を検索した際に、病気の概要や症状、原因などが検索結果の最上部に表示されます。従いまして、「Yahoo!検索」ではパソコン版（タブレット）でもスマートフォン版でも、同様の表示がなされるようになりました。



お知らせ

- 2025年度（令和7年度）
- 2024年度（令和6年度）
- 2023年度（令和5年度）
- 2022年度（令和4年度）
- 2021年度（令和3年度）
- 2020年度（令和2年度）
- 2019年度（令和元年度）
- 2018年度（平成30年度）
- 2017年度（平成29年度）

医療機関ネットパトロール:2017年(平成29年)8月24日から開始



厚生労働省委託事業
医業等に係るウェブサイトの監視体制強化事業

受託事業者
イーピーエス株式会社

医療機関 ネットパトロール

医療広告ガイドライン、Q&A、事例解説書
医療法における病院等の広告規制について

見つけてください。あなたの目で！
うそや大きな表示は、『医療広告ガイドライン』違反です。

医療機関ネットパトロール 通報フォーム

下記のフォームに記入してください。URLが複数ある場合は、「サイト中の気になる表示とその理由」欄に入力してください。「医療機関名」が不明の場合は空欄で送付してください。

医療機関名(または店名・ウェブサイト名) **必須**

上記機関の所在地 **必須**

—以下から選択してください—
※その他・不明の場合は、最下部の「その他・不明」を選択してください。

メディア **必須**

ホームページ ブログ・SNS・動画 口コミサイト・ランキングサイト・まとめサイト等 その他

カテゴリー **必須**

医療機関(美容) 医療機関(歯科) 医療機関(がん) 医療機関(医療その他) 医薬品
 健康食品・サプリメント等 整骨院・整体・鍼灸等 その他

医療機関のウェブサイトがうそや大きな表示があったら、情報を

- 医療機関のウェブサイトがうそや大きな表示がないかどうかを監視するのが『医療機関ネットパトロール』です。

研究＝治療ではない、未来につながる治療に参加することが大事

「わらにもすがり」の前に知っておきたい：自費診療・免疫療法の現実

有効性が証明されていない自費診療の「免疫療法」に高額な費用を投じる患者が増えています。本資料は、希望をを求めあまり「がん難民」となるリスクと、主治医とのつながりを維持し続ける重要性について解説します。

自費診療「免疫療法」に潜むリスク

科学的な有効性の根拠（エビデンス）がない

保険適用外の免疫療法の多くは、国に承認されておらず効果が証明されていません。

緊急時や緩和ケアの体制が不十分

自費診療クリニックでは、体調悪化時の対応や心のケアが受けられない傾向があります。

「わらにもすがり」につけ込むビジネス

経済的・精神的に追い詰められた患者の心場が、ビジネスの対象となっています。

公的な保険診療と自費診療の免疫療法の違い

自費診療の免疫療法



有効性の証明：
未証明（根拠なし）



国の承認：
未承認



費用：
全額自己負担
（非常に高額）

保険診療の免疫療法



有効性の証明：
科学的に証明済み



国の承認：
承認済み



費用：
保険適用
（高額療養費制度あり）

「がん難民」として孤立しないために

選択肢が増えるほど「がん難民」になるリスク

根拠のない治療法に振り回され、適切な医療から遠ざかるケースが増えています。

主治医とのつながりを断絶させない

自費診療を検討する場合でも、元の病院との連絡手続を確保しておくことが不可欠です。

「いつでも帰ってきてください」と言える関係

どんな選択をしても、継続して診てくれる医療機関を持つことが最大の安全網です。

1. がん教育の経緯

なぜがん教育がはじまったのか？

	2017年度 平成29年度	2018年度 平成30年度	2019年度 令和元年度	2020年度 令和2年度	2021年度 令和3年度	2022年度 令和4年度
政府	がん対策基本法(平成28年12月16日改正) ※新たにがん教育について記載 第二十三条 国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。					
	第3期がん対策推進基本計画【2017年度～2022年度の6年間】 (平成29年10月24日閣議決定,平成30年3月9日一部変更) 【個別目標】 国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める。					
文部科学省	がん教育の実施状況に関する全国調査					
	<ul style="list-style-type: none"> ◆新学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領を踏まえた教員や外部講師の質の向上。 <ul style="list-style-type: none"> ・教員,外部講師に対する実践的ながん教育研修会の実施 ○先進事例の全国への普及・啓発。 <ul style="list-style-type: none"> ・先進事例の紹介等を行うがん教育シンポジウムの開催 ◆地域の実情に応じたがん教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領及びそれぞれの地域の実情に応じたがん教育の取組を支援。 <ul style="list-style-type: none"> がん教育総合支援事業[委託事業] ・教育委員会等によるがん教育に関する教材の作成・配布 ・学校医,がん専門医,がん経験者等の外部講師によるがん教育の実施 					
	[委託事業] ・教育委員会等によるがん教育用教材の作成 ・専門医等の講師派遣 ・教職員用研修会の開催 など					
	・外部講師名簿作成等,活用体制の整備(2019年度～)					
学習指導要領改訂関係						
小学校	周知・徹底	先行実施		全面実施(2020年度～)		
中学校	周知・徹底	先行実施		全面実施(2021年度～)		
高等学校	改訂	周知・徹底	先行実施		年次進行で実施(2022年度～)	

医師やがん経験者等を外部講師として活用し、
がん教育のさらなる充実を図る

外部講師を活用したがん教育の進め方の基本方針

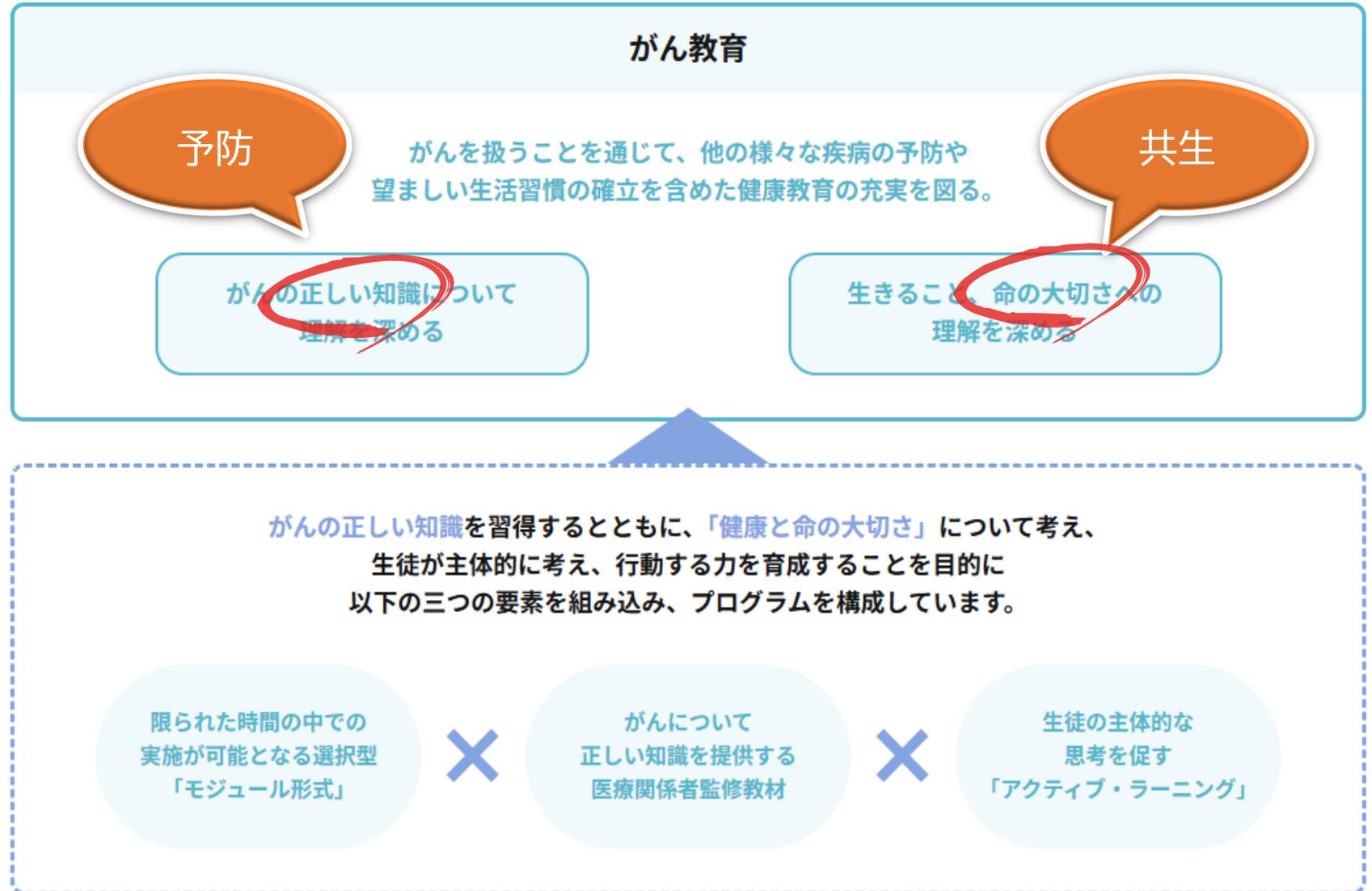
- ① 講師の専門性やこれまでの経験が十分に生かされるよう工夫する。
 地域や学校の実情に応じて、学校医,がん専門医(「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン,がん診療連携拠点病院等の活用を考慮),がん患者やがん経験者など,それぞれの専門性が十分生かせるような指導の工夫を行い,教員と十分な連携のもと外部講師を活用したがん教育を実施する。
- ② 学校教育活動全体で健康教育の一環として行う。
 保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。学級担任や教科担任,保健主事などが中心となって健康教育の一環として企画するものであり,必要に応じ,養護教諭とも連携する。また,家庭や地域社会との連携を図りながら,生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮する。なお,効果的な指導を行うためには,学校保健計画に位置付けるなどして計画的に実施することが望ましい。
- ③ 発達段階を踏まえた指導を行う。
 小学校では,主としてがんを通じて健康と命の大切さを育むことを主なねらいとする。中学校,高等学校では主として,科学的根拠に基づいた理解をすることを主なねらいとする。その際,各校種のねらいを踏まえ,発達段階を考慮し,外部講師を活用したがん教育を行うなどの工夫を行う。

図5 「がん教育」に関する政府と文部科学省のスケジュール(文部科学省)

予防と共生の両輪が必要

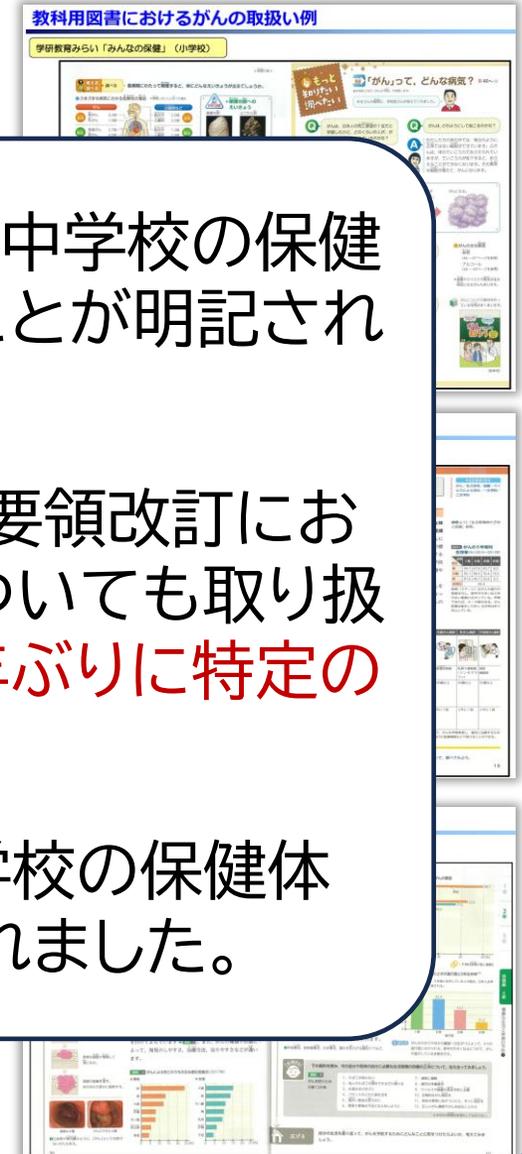
がんをテーマとして教育で扱う際に大切なことは、「生きている限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という正解が一つではない問を通して、「自分らしい生き方」や「健康と命の大切さ」について考えることです。

そのため、本プログラムでは、がんに対する正しい知識の習得とともに、生徒が主体的に考え、行動につなげられるような内容を目指し作成しています。



学習指導要領等における「がん」に関する主な記述

- 平成29年3月に改訂された中学校、平成30年3月に改訂された高等学校の学習指導要領において、生活習慣病などの予防と回復等について学習する際に、「**がんについても取り扱う**」ことが新たに明記された。
- 学習指導要領に基づき、各学校において、児童生徒の発達段階に応じた「がん教育」が実施されている。



第2
2
G

✓ **1998年度** (平成10年度) の学習指導要領改訂この改訂で中学校の保健体育科の指導内容に「エイズ及び性感染症」を取り上げることが明記されました。

第2
2
1

✓ 平成29年 (**2017年**) ~ 平成30年 (2018年) の学習指導要領改訂において、**中学校・高等学校の保健体育科の内容に「がんについても取り扱うこと」**を明記することが決められました。以降、**約30年ぶりに特定の疾患名が保健体育科の中で取り上げられました。**

✓ 令和4年度 (2022年度) の学習指導要領改訂では、高等学校の保健体育で「精神疾患の予防と回復」という項目が新たに明記されました。

イ 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

3 内容の取扱い

(3) 内容の (1) のアの (イ) 及び (ウ) については、(略)。また、**がんについても取り扱う**ものとする。

対策が必要であることを理解できるようにする。

イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

3 内容の取扱い

(1) 内容の (略) (1) のアの (ウ) については、**がんについても取り扱う**ものとする。 2

様々な媒体から出されるがん教育に関する教材・補助教材



がん教育推進のための教材 (令和3年3月一部改訂)

学校においてがん教育を実施するにあたり効果的な指導が行えるよう、教材を作成。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369992.htm



外部講師を活用したがん教育ガイドライン (令和3年3月一部改訂)

学校において外部講師ががん教育を実施するにあたり、留意すべき事項等を示すものとしてガイドラインを作成。

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm



がん教育推進のための教材 補助教材について (令和3年3月一部改訂)

がん教育を実施する際の参考資料となるよう、「がん教育推進のための教材」に対応したスライド資料として、小学校・中学校及び高等学校版作成。

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm



映像教材

映像教材①
「がん博士の『がんについての基礎知識』」
がんについての知識を伝える。

映像教材②
「がんと生きる」
がん患者の思いや考えを伝える。

ワークシート

スライド教材

がんを詳しく調べたいときは...

がんについて、信頼できる最新の正しい情報を知りたい

- 国立がんセンター がん対策情報センター「がん情報サービス」
<http://ganjoho.jp>
- 東京府のがん状況や情報、東京都内のがんに関する病種について調べたい
▶東京府がんポータルサイト
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/ryo/ryo_hoken/gan_portal/index.html

●発行年月 平成29年6月
●東京府教育委員会監修 平成29年度 第3号
●編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 TEL. 03-5320-6867

がんを理解し、支え合える社会へ

がんとはどのような病気でしょうか？

がんとは、正常な細胞が、何らかの原因で、増殖し続けることで発生する病気です。増殖した細胞が、正常な細胞の働きを妨げ、周囲の組織を破壊し、他の臓器に転移して生命を脅かすことが起こります。

がんは、年齢が高くなるほど発生しやすくなります。しかし、近年は若年がんの発生も増加しています。また、がん細胞は増殖し続けると、周囲の組織に広がり、他の臓器にも転移して生命を脅かすことがあります。

日本のがんの現状

がんは、昭和56年から、日本人の死因の第1位となり、現在では約3人に1人ががんによって死亡しています。

東京都のがんの現状

東京都におけるがんの発生状況は、がんによる死亡数は年々増加しており、平成23年のがんによる死亡者数は昭和61年と比較して約2倍になっています。

順位	男性		女性	
	がん種別	がん種別	がん種別	がん種別
1位	肺がん	大腸がん	肺がん	大腸がん
2位	胃がん	膵がん	膵がん	膵がん
3位	大腸がん	膵がん	大腸がん	乳がん
4位	膵がん	膵がん	膵がん	膵がん
5位	膵がん	乳がん	膵がん	膵がん

東京都教育委員会

【目次】

- 1 がんという病気 2
- 2 我が国におけるがんの現状 3
- 3 がんの経過と様々ながんの種類 4
- 4 がんの予防 6
- 5 がんの早期発見とがん検診 8
- 6 がんの治療法 10
- 7 がんの治療における緩和ケア 12
- 8 がん患者の「生活の質」 13
- 9 がん患者への理解と共生 14
- 小学生用教材案 17

【はじめに】

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的理解を深めることを通じて、自らの健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。学校においてがん教育を実施するにあたっては、これらの目的や意義を地域・社会と共有し、がん専門医をはじめとする医療従事者やがん経験者等、学校外の人材を積極的に活用することが重要である。これらの外部講師は特定の資格や認定を要するものではなく、多様な人材が参加し、それぞれの専門性やこれまでの経験を活かせるような指導の工夫を行うことにより、がん教育がより実践的で効果的なものとなることを期待される。

学校指導要領に基づきがん教育が充実する中、外部講師の更なる活用に向けて本ガイドラインを積極的に活用いただきたい。

【目次】

- 第1章 外部講師を活用したがん教育の必要性 2
 - 1 がん教育の意義 2
 - 2 がん教育の位置付け 4
 - 3 普及啓発への教育委員会の役割 6
- 第2章 外部講師を活用したがん教育の進め方 9
 - 1 がん教育の進め方の基本方針 9
 - 2 がん教育実施上の手順(例) 10
 - 3 がん教育実施上の留意点 11
 - (1) 実施形態 11
 - (2) 外部講師 11
 - (3) 必要となる事項 12
 - 4 実施された外部講師のための 12
 - (1) 授業等へ参加する上での留意点 12
 - (2) 外部講師を活用したがん教育において配慮が必要な情報 12
 - (3) その他 13
- 【参考資料】 14
 - 資料 1 がん教育に必要な内容 14
 - 資料 2 学習指導要領及び学習指導要領解説における「がん」に関する記載 16
 - 資料 3 用語解説 23

発達段階に応じた学習目標の設定

資料2 学習指導要領及び学習指導要領解説における「がん」に関する記載部分

① 小学校学習指導要領(平成29年3月告示) 抜粋
教科: 第9節 体育

第2 各学年の目標及び内容

2 内容

G 保健

(3) 病気の予防について、課題を見付け、その身に付けることができるよう指導する。

ア 病気の予防について理解すること。

(ウ) 生活習慣病など生活行動が主な要因と運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔を身に付ける必要があること。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康

② 中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 抜粋
教科: 第7節 保健体育

第2 各学年の目標及び内容

[保健分野]

2 内容

(1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

(イ) 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び和のとれた生活を続ける必要があること。

(ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多様な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによること。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康要因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会的影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。

(オ) 健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要で、健康・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正

③ 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示) 抜粋
教科: 第6節 保健体育

第2款 各科目

第2 保健

2 内容

(1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(イ) 生活習慣病などの予防と回復

健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

(ウ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。

(4) 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。

(イ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。

【共生】

自分自身がヘルスケアプロバイダーの一員としての自分の存在が明記された。

2. がん教育の課題

実施をして見えてきた課題

- ✓ がん教育を実施しているのは、全体の56.8%に当たる2万1239校。このうち、**12.6%に当たる2676校が外部講師を活用**。活用した外部講師の職種は、**がん経験者557校(20.8%)、がん専門医454校(17.0%)、薬剤師392校(14.6%)、学校医358校(13.4%)**など。
- ✓ 活用の効果は多くの学校が、「健康と命の大切さについて主体的に考えることができた」「がんに関する**知識・理解**が深まった」と回答。
- ✓ 今後の課題としては、「講師との打ち合わせを事前に行わないと、**講師の話す内容と学校の要望にギャップが生じる**」「**年間指導計画**に位置付けないと、指導時間の確保が難しい」「**講師リスト**などがなく、**講師を探すのが難しい**」「**講師謝金などの経費が確保できない**」

何科で実施するかで学習目標が変わる...
年度末や行事の合間をぬって開催するので、特定の時期に集中しがち。

	体育科で実施	特別活動で実施	その他	実施せず
小学校段階	11,077	1,207	667	7,169
小学校	10,894	1,171	600	6,390
義務教育学校	105	13	6	80
特別支援学校	78	23	61	699

	特別活動で実施 ※	その他 ※	実施せず (保健体育科を除く)
中学校段階	1,202	1,034	8,483
中学校	1,129	947	7,530
義務教育学校	35	22	146
中等教育学校	8	4	44
特別支援学校	30	61	763
高等学校段階	511	408	4,615
高等学校	457	302	3,793
中等教育学校	9	4	39
特別支援学校	45	102	783

※中学校段階、高等学校段階は、保健体育科で実施した上で、他教科等でも実施した場合について回答されている。

質問2:質問1及び保健体育科で実施された「がん教育」において、貴校では外部講師を活用したがん教育を実施しましたか。(割合の分母は回答した全ての学校数)

※ () 内は、前年度の数値

	実施した		実施しなかった	
		割合		割合
合計	4,459 (4,091)	12.5 (11.4)	31,341 (31,741)	87.5 (88.6)
小学校段階	2,056 (1,854)	10.6 (9.5)	17,349 (17,602)	89.4 (90.5)
小学校	2,030 (1,834)	11.1 (9.9)	16,297 (16,611)	88.9 (90.1)
義務教育学校	21 (12)	10.2 (6.8)	185 (164)	89.8 (93.2)
特別支援学校	5 (8)	0.6 (1.0)	867 (827)	99.4 (99.0)
中学校段階	1,779 (1,594)	16.4 (14.7)	9,060 (9,271)	83.6 (85.3)
中学校	1,702 (1,523)	17.5 (15.6)	8,005 (8,270)	82.5 (84.4)
義務教育学校	42 (35)	20.5 (19.9)	163 (141)	79.5 (80.1)
中等教育学校	7 (6)	13.0 (10.5)	47 (51)	87.0 (89.5)
特別支援学校	28 (30)	3.2 (3.6)	845 (809)	96.8 (96.4)
高等学校段階	624 (643)	11.2 (11.7)	4,932 (4,868)	88.8 (88.3)
高等学校	546 (556)	12.0 (12.2)	4,022 (3,984)	88.0 (87.8)
中等教育学校	10 (7)	19.2 (13.7)	42 (44)	80.8 (86.3)
特別支援学校	68 (80)	7.3 (8.7)	868 (840)	92.7 (91.2)

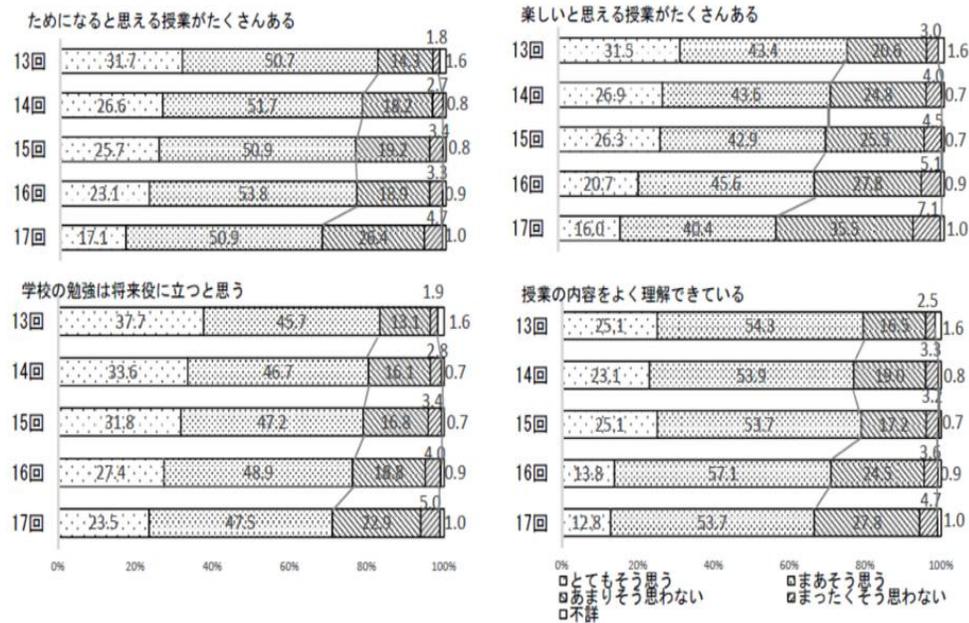
3. 誰を対象に、何を実施、アウトカムは何か？

理科教育をめぐる課題

中学1年生から高校2年生にかけて**学校の授業に対する満足度は低下**する傾向。
高等学校に入ると**学校外の勉強時間は2極化**する傾向。

1(1) 高等学校教育の課題

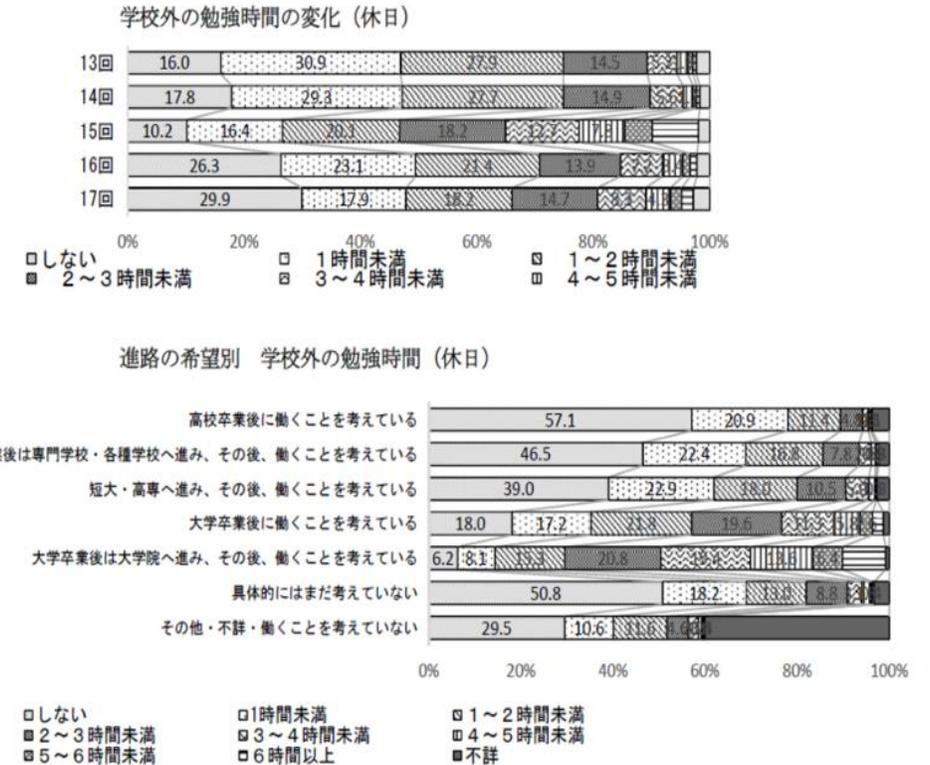
◆ 中学1年生から高校2年生にかけて学校の授業に対する満足度は低下する傾向。



(出典) 第17回21世紀出生児縦断調査 (平成13年出生児) の結果概要 (令和元年文部科学省)

1(1) 高等学校教育の課題

◆ 高等学校に入ると学校外の勉強時間は二極化する傾向。



(出典) 第17回21世紀出生児縦断調査 (平成13年出生児) の結果概要 (令和元年文部科学省)

学校教育におけるSTEAM教育等の教科書的な学習の推進

- AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められている。
- 学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることとされている。

STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進することが重要

文理の枠を超えたカリキュラム・マネジメントの充実

- ・ 生徒・学校・地域等の実態を踏まえ、スクール・ポリシーに基づき文理の枠を超えた教科等横断的な視点で教育課程を編成・実施
- ・ スクール・ポリシーと総合的な探究の時間等の目標との関連を図る
- ・ 各教科の教師の専門性を生かした協働体制を構築
- ・ 教師の負担を軽減しつつ学校外リソースを活用するための連携体制を整備
- ・ ICTを活用した学習を積極的に推進

教育委員会等による支援の充実

- ・ 各学校の多様な実態を踏まえながら、スクール・ミッションに基づきカリキュラム・マネジメントを支援
- ・ ICTを活用した学習を推進するとともに、産業界や高等教育機関、社会教育施設、地域の団体等と連携し、各学校と外部の人材やコンテンツ等のリソースのマッチングを通じて社会に開かれた教育課程の実現を促進

各教科等における探究的な学習活動の充実

- ・ 各教科等の目標の実現に向け、その特質に応じた見方・考え方を働かせながら、文理の枠を超えて実社会の課題を取り扱う探究的な学習活動を充実



総合的な探究の時間、理数探究等を中心とした探究活動の充実

- ・ 複数の教科等の見方・考え方を総合的・統合的に働かせながら、文理の枠を超えて実社会の課題を取り扱い探究する活動を充実
- ・ 試行錯誤しながら新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を育成

理学、工学、芸術、人文・社会科学等を横断した学際的なアプローチで実社会の問題を発見し解決策を考えることを通じた主体的・対話的で深い学びの実現

- ✓ 知的好奇心や探究心を引き出すとともに学習の意義の実感により学習意欲を向上
- ✓ 文理の枠を超えた複合的な課題を解決し新たな価値を創造するための資質・能力を育成
- ✓ 高等学校等における多様な実態を踏まえた探究的な学習活動を充実

STEAMの各分野が複雑に関係する現代社会に生きる市民、新たな価値を創造し社会の創り手となる人材として必要な資質・能力の育成

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる（学習指導要領前文）

省を超えた展開:未来の教育ビジョン(経済産業省)

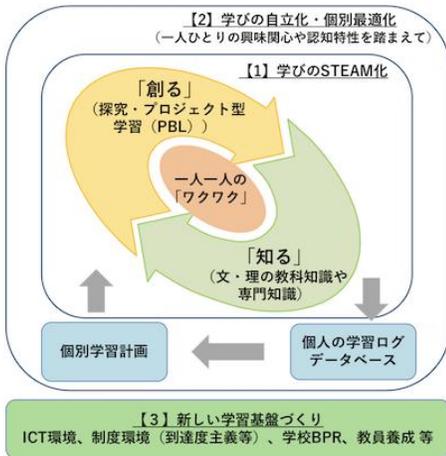
「未来の教室」ビジョン

経済産業省「未来の教室」とEdTech研究会 第2次提言

EdTech の力で、一人ひとりに最適な学びを
STEAM の学びで、一人ひとりが未来を創る当事者(チェンジ・メイカー)に

2019年6月

「未来の教室」が目指す姿



【事例1】日本の未来社会を創る:「スマート農業:農業×データ科学×IoT×ロボティクス」～専門高校における新たな学びと「STEAM 拠点」としての可能性

全国農業高等学校校長協会の協力のもと、ベジタリア株式会社が実施したプロジェクト。農業高校(総合高校含む)6校の圃場や施設を使用して、第4次産業革命時代の農業のイメージのもと、生徒たちがIoTセンサーの仕組みやロボット技術の仕組みを学び、簡易的なセンサーやロボットの制作実習を通じて、それらの技術を農業分野でどのように活用することができるかを探究し、未来の圃場管理システムを創り上げることを目指した。

先端技術を用いて本物の課題に取り組む中で、生徒達からは「自分たちにもできる」「誰かの役に立つ」「こんな仕事(ロボティクス分野)に就きたい気持ちが出た」「世の中の役に立つ物が作れそうだと」、学習意



【事例4】中学数学をEdTechで効率的に学び、学んだ定理を応用し

千代田区立麹町中学校における株式会社 COMPASS の実証事業では、AI 型トピックを抽出された時間でそれまでに習った数学の定理や数学的思考を用いてロボットやドローンを実施した。これは「なぜ数学を学ぶ意味があるのか」「社会実装されたテクノロジーに知識を習得するサイクルを構築することにより、一つ一つの教科単元が結びつき、「知る」と「創る」が循環する STEAM 化された学びが体现された一つの例ではないだろうか。

一斉講義なし、フリーアドレス、AI を助けに
個別最適化された学習



【事例11】教師向けの「学校改革支援プログラム」

右図は、タクトピア株式会社が実施したアントレプレナーシップの要素を盛り込んだ「未来の先生」を目指す研修プログラムモデルである。

“自分たちの学校を自ら改革する志を持った先生たち”が集まり、一人ひとりのアイデアからプロトタイプを行い、伴走者とともにそのブラッシュアップを行っていく過程で、アントレプレナーシップの各種手法や海外大学で研究されている最新の価値観(コアバリュー定義)等をインプットし、それらを実際に活用して各学校における改革案を実行した。

この過程において、数週間おきに対面での伴走者や同プログラム受講者の仲間たちからフィードバックを得たほか、同様のアントレプレナーシップ養成プログラムに参加した大学生たちとの交流等を行うことによって、プロジェクトに自分の学校の生徒や学校外の人物を巻き込んだ例もみられた。また、Slack 等のコミュニケーションツールを活用することにより、日々のプロジェクト進捗の状況を他参加者と共有することで、励ましあいの効果がみられた。

オンラインでのコミュニケーションツールの活用による効果は、ベネッセによる実証事業で行われた Zoom 会議でもみられ、学校という小さなコミュニティで“孤独な改革者”を放置しないための支援環境の構築を求める声が多数聞かれた。

米国公共放送ネットワークの提供する Moocs では、指導案等と共に教育コンテンツを公開。(第9回研究会事務局資料より)



アメリカ癌学会の患者参画プログラム

AACR American Association
for Cancer Research®

Search

CANCER RESEARCHERS / OTHER
HEALTH CARE PROFESSIONALS

PATIENTS, CAREGIVERS,
AND ADVOCATES

GET INVOLVED

WAYS TO GIVE

ABOUT THE AACR

ABOUT CANCER

PROGRESS AGAINST CANCER

SURVIVOR JOURNEYS

INNOVATORS IN DISCOVERY

PATIENT ADVOCACY

第84回 日本癌学会学術総会

The 84th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association

国際がん研究集会 in 金沢

International Cancer Meeting in Kanazawa

Home > Patients, Caregivers, and Advocates > Patient Advocacy > Scientist↔Survivor Program®

IN THIS SECTION

PATIENT ADVOCATE EVENTS

AACR ANNUAL MEETING 2026

RESOURCES

PATIENT ADVOCATE REGISTRATION RATES

SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM®

OVERVIEW

SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM®: POSTERS

SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM®: MISSION

SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM®: GOALS

SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM®: GUIDELINES AND
APPLICATIONS

SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM®: SUPPORTERS

AFFILIATE ADVOCATE MEMBERSHIP

SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM®

AACR ANNUAL MEETING SCIENTIST↔SURVIVOR PROGRAM® 2026

April 17-22, 2026

San Diego Convention Center
San Diego, California

ADVOCATE APPLICATION NOW OPEN

Advocate Mentor Application: Coming Soon

BUILDING BRIDGES FOR PROGRESS AGAINST CANCER

Now celebrating its 28th year, the AACR Scientist↔Survivor Program® is designed to build partnerships among the leaders of the scientific, cancer survivor, and patient advocacy communities worldwide. This special educational program is held during the AACR Annual Meeting to provide patient advocates with special lectures using plain language, small group discussions, and other opportunities for the exchange of information on key aspects of cancer research, survivorship, advocacy, and public policy.

- Scientist↔Survivor Program® Mission
- Scientist↔Survivor Program® Goals
- Scientist↔Survivor Program® Requirements and Guidelines

For more information, email advocacy@aacr.org



公式SNS

WEB視聴のご案内

New!

オンライン抄録

New!

HOME

学会会長挨拶

開催概要

組織委員

プログラム

Meet the Editor

Run&Walk in Kanazawa 2025

ワークショップ
Academia Meets Drug
Discovery

市民向け啓発プロジェクト
「Delete C」との共同企画

おもてなし企画のご案内

New!

参加登録

共催セミナー

シンポジウム企画募集

演題募集

単位

サバイバー・科学者 プログラム(略称 SSPプログラム)

■ 日時

2025年9月25日(木)～27日(土)

■ 会場

参加者

ANAクラウンプラザホテル金沢
〒920-8518 石川県金沢市昭和町16-3

※ 今後の感染状況により、開催方法をWEB開催へと変更する場合がございますこと、ご了承ください。

聴講者

オンライン会場

■ 参加費

無料(現地参加者には旅費交通費の助成があります)

■ 目的

がん患者や家族を支援する団体運営者または個人が、日本癌学会学術総会への参加を通じてがん研究に関する理解を深めることで、がん研究に対してがん患者や家族の立場から参画する「リサーチ・アドボケート」が養成されること。また、リサーチ・アドボケートとがん研究者が協働してがん研究の推進を図ることで、がん医療の向上に寄与すること。

■ 概要

SSP プログラム参加者は第84回日本癌学会学術総会において、SSP プログラムの受講、プログラムセッションの聴講、ポスターの閲覧、並びにあらかじめ指定されたテーマによるポスター掲示・発表ができます。また、学術総会参加費の免除、学術総会参加に伴う旅費交通費の助成が行われるとともに、プログラム修了者には修了証が授与されます。

■ お問い合わせ先

一般社団法人 日本癌学会事務局

E-mail : sp-jca2025@c-linkage.co.jp

アメリカ癌学会の患者参画プログラムの目標

リサーチアドボケイトへの期待・役割



リサーチアドボケイトに必要なスキル



リサーチアドボケイト

リサーチアドボケイト養成のアプローチ



アメリカ癌学会の高校生向けプログラム

SPECIAL PROGRAM FOR HIGH SCHOOL STUDENTS

THE CONQUEST OF CANCER AND THE NEXT GENERATION OF CANCER RESEARCHERS

Join us at the AACR Annual Meeting 2026

April 17-22, 2026 | San Diego, California

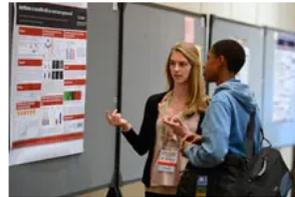
The AACR Special Program for High School Students entitled “The Conquest of Cancer and the Next Generation of Cancer Researchers” will take place on **Tuesday, April 21, 2026, from 8:30 a.m. to 2:30 p.m.**

- **Abstract Submission Deadline:** Friday, March 6, 2026
- **Registration Deadline:** Friday, March 13, 2026

REGISTER

The AACR is committed to the education and training of the next generation of cancer researchers and to fostering their careers in cancer research or cancer-related biomedical science.

The Special Program for High School Students promotes interactions between senior cancer scientists and promising students in order to facilitate the contributions of these students to scientific research and inspire them to pursue careers in cancer science and medicine. Thanks to our sponsor,



AACR は、次世代のがん研究者の教育と訓練、およびがん研究やがん関連の生物医学科学におけるキャリアの育成に尽力しています。

高校生特別プログラムは、がん研究の第一人者と将来有望な高校生との交流を促進することで、高校生の科学研究への貢献を促進し、がん科学・医学分野でのキャリアを志す意欲を高めることを目的としています。

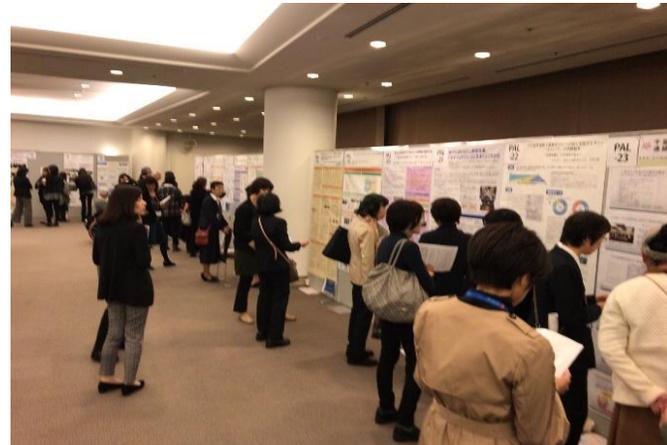
●セッションの内容

- ✓ 著名な科学者による講演や、がん体験者による感動的な講演。
- ✓ インターンシップや就職の機会に関する情報。
- ✓ 実践的な実験
- ✓ 学生によるポスター発表、がん研究者との非公式なネットワーキング、夏季インターンシップに関する情報提供などを含む無料のランチタイムレセプション。
- ✓ 学生が研究を発表し、賞を獲得する機会。

AACR年次総会2026で開催される高校生向け特別プログラムのメンターとしてボランティアを募集しています。才能あふれる高校生たちに専門知識を共有してみませんか？サンディエゴで開催されるこのエキサイティングなセッションでは、AACR会員の皆様をメンターとしてボランティアとしてご招待いたします。

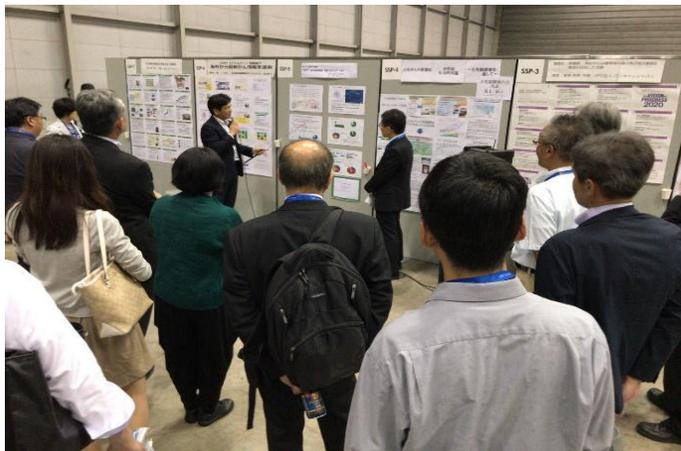
日本癌治療学会学術集会 PAL Patient Advocate Leadership

- ・がん医療や患者支援を向上させるための患者会活動のリーダーを養成することを目的として開催。
- ・「日本癌治療学会社会連携・PAL委員会ワーキンググループ」に全国がん患者団体連合会理事も委員として参画し、日本癌治療学会事務局と共同で運営（現在、運営事務局は任意で公募制）。

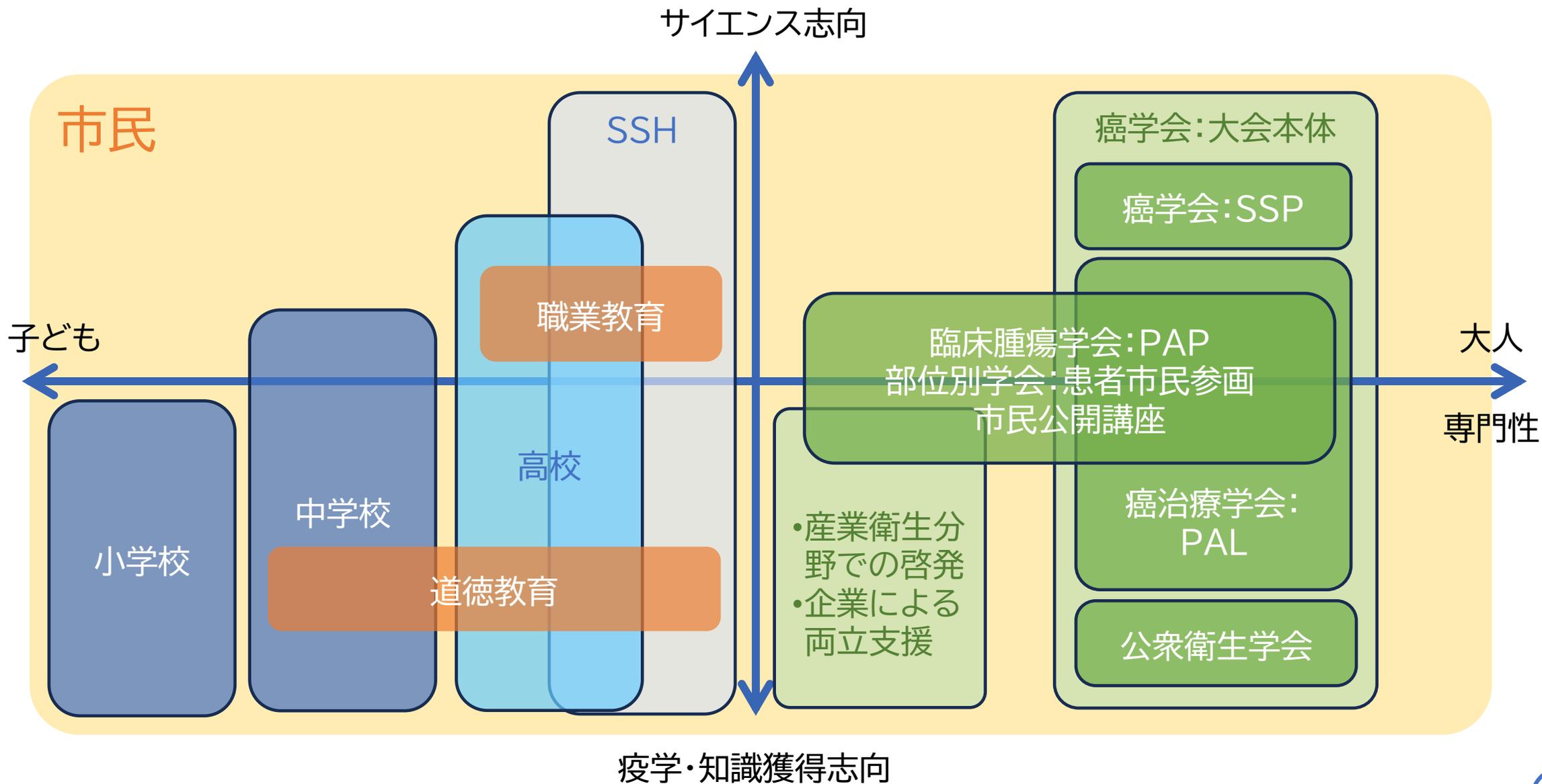


日本癌学会学術総会SSP(サイバイバー・科学者プログラム)

- ・米国本部のAACRにおけるSSPプログラムを日本に導入したもの。がん研究にがん患者や家族の立場から参画する「リサーチ・アドボケート」を養成することを目的に、会期を通じて開催。
- ・日本癌学会協働委員会に全国がん患者団体連合会理事が外部委員として参画、学会事務局と共同運営。



がん教育のロードマップ:空白域がある、空白域のほうが大きい?



まとめ

- ✓科学の推進に国民の理解や応援は欠かせない。
 - ✓理解に向けては、技術の革新性や意義、その「益と害」を、わかりやすく発信することが重要である。
 - ✓真実の歩み／希望への道のりも、一瞬にして崩壊、必要な人に届かなくなる可能性がある。
 - ✓少しずつ私たちの手に届くようになった未来の医療・希望を、再生医療学会として、誰を対象に、誰が、どんな教育を提供し、何をアウトカムにするのかを整理する必要がある。
-

私がほしいのは…

1

からだ方言録
KARADA HOUGENROKU



- ① 特定細胞加工物とか細胞培養加工施設とか、法律の名前を、もっとわかりやすい表現にしてほしい！！
- ② なぜ試験をつくったり、安定供給するのが難しいのか、もっとわかりやすく教えてほしい！
- ③ 薬の開発、とくに再生医療の開発にどのぐらいのコストと設備、道のりがあるのか、簡単に説明してほしい！
- ④ いったいいつになったら、私たちの手元に届くのかも考えてほしい！

2

絆創膏やフィルムなどの製品を作る、外でトレーニングを受けた細胞を戻す
➔製品としての安定や、届ける人の技術が重要！

4



3



ありがとうございました